

令和 7 年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

知立市総合公共交通会議 (知立市)

平成 1 9 年 9 月 1 日設置

令和元年 3 月 2 2 日 知立市地域公共交通計画策定
(計画期間：令和元年 4 月～令和 9 年 3 月)

評価対象の地域公共交通確保維持事業

- ・ 地域間幹線系統確保維持国庫補助金
- ・ 公有民営方式車両購入費国庫補助金

凡 例

- 公共交通軸(鉄道)
- 公共交通軸(広域幹線バス)
- 生活交流路線(地域間幹線補助系統)
- 生活交流路線
- 周辺市町コミバス
- 交通結节点

知立駅

市役所

大規模商業施設

福祉の里ハツ田

知立市ミニバス1コース(グリーン)

知立市ミニバス2コース(パープル)

知立市ミニバス3コース(オレンジ)

知立市ミニバス4コース(ブルー)

知立市ミニバス5コース(イエロー)

東刈谷駅

刈谷市公共施設連絡バス

刈谷市公共施設連絡バス

刈谷市公共施設連絡バス

安城市あんくるバス

豊田市 高岡地域バス(ふれあいバス)【地域間幹線補助系統】

伊勢湾岸自動車道

豊田南 I.C

三河八橋駅

知多乗合 中部空港アクセスバス

東浦町 連行バス「う・ら・ら」

刈谷市 公共施設連絡バス

野田新町駅

都市軸(商業軸)

公共施設軸

住宅ゾーン

都市的機能整備ゾーン

商業ゾーン

工業ゾーン

産業ゾーン

農業ゾーン

N

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
基本方針 1 (1) 利用者目線による分かりやすい情報の提供 ①ミニバスdeお出かけモデルコース冊子の作成	■バスを利用したことが無い方が利用するきっかけ作りとして、ミニバスや刈谷市・安城市・豊田市のコミュニティバスを利用したモデルコース冊子を作成し、各市役所等で配布、市ホームページで公開	■市内高齢者の団体が活動に取り入れ、実際に実施、今後年2回程度の実施を検討 ■関係市にも積極的に配布し、窓口やイベント等で配布。連携が深まった	■令和5年度から市内高齢者の団体が活動に取り入れ、参加者からはバスの便が合わない時間帯は歩くなど健康づくりにも活かせるとの声が聞かれた。
基本方針 1 (1) 利用者目線による分かりやすい情報の提供 ②バスロケーションシステムの導入	■パソコンやスマートフォンなどでバスの運行状況が確認できるシステムを導入 ■各バス停の時刻表にバスロケの二次元コードを掲載するとともに、利用方法を掲示することで初めて利用する人にも配慮	■遅延に対する苦情等が2～3件／月のところ0～1件／月程度に減少	■各バス停に二次元コードを掲載したことが功を奏したと考える。 ■一方で画面が見にくい、わかりにくいという声もあるため、費用対効果を鑑みながら改善策を検討する。
基本方針 1 (1) 利用者目線による分かりやすい情報の提供 ③G T F Sデータの整備とGoogleMapへの経路掲載	■G T F Sデータを整備し、データリポジトリにて公開 ■各路線検索サイト・アプリに路線情報を掲載 ■利用率の高いGoogleMapにルートに掲載することにより、利用者の利便性を向上	■実際の各サイトのアクセス数やアプリでの検索数等は不明 ■アプリ等利用していると考えられる若中年齢層からの乗換についての問い合わせはほぼない状況	■検索の手段を増やすことが出来たため、利用者の利便性は向上したと考えられる。
基本方針 2 (2) 利用促進を誘導する施策 ④夏休み期間中の中学生乗車無料キャンペーン	■中学生が公共交通を利用するきっかけ作りとして、夏休み期間中はバス降車時に乗務員に生徒手帳等を見せるとミニバスを無料で利用できる取組を実施	・令和5年度利用者数：475人 ・令和6年度利用者数：439人 (各年利用率は全生徒数の約23%)	■コロナ禍にあった令和2年度を除き平均で400人以上が利用しており、乗車記録からプールや近隣のショッピングモールへの移動に利用していると考えられる。
基本方針 2 (2) 利用促進を誘導する施策 ⑤運転免許自主返納者支援事業	■運転免許証を自主返納した65歳以上75歳未満の市民に対してミニバス乗車券を発行	■乗車料金種別調査によると令和6年度の全利用者約27万人のうち約3%が自主返納者の利用 ・利用者数(推定)8,200人	■75歳になると高齢者ミニバス運賃無料化事業に移行し、減少するはずだが、毎年3%で推移しているため、毎年一定数が返納し、交通手段として活用されていると考えられる。

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
基本方針 2 (2) 利用促進を誘導する施策 ⑥高齢者ミニバス運賃無料化事業	■ 75歳以上の市民は、ミニバス無料パスケースに後期高齢者証明書（現後期高齢者医療被保険者証）をパスケースに入れて利用することで、無料で乗車が可能	■ 乗車料金種別調査によると令和6年度の全利用者約27万人のうち約31%が75歳以上の高齢者の利用 ・ 利用者数（推定）83,700人	■ 市北西部を周回する1コースでは75歳以上の高齢者利用が平均49%と半数近くを占めており、高齢者のお出かけ需要に応えられていると考えられる。
基本方針 3 (3) 地域づくりと一体となったバスへの愛着（マイバス意識）を高める施策 ⑦乗車体験イベント	■ 公共交通の認知度の低い若中年齢層を対象に、市内で開催される親子向けイベントにミニバス等を展示、実際に乗車して車両に触れてもらうことにより、公共交通を利用するきっかけとする	■ ちりゅう子どもフェスティバルにて乗車体験を実施 ・ 令和5年度：参加者数804人 ・ 令和6年度：参加者数868人 ※令和6年度はタクシーの乗車体験も併催	■ 令和6年度の乗車体験時のアンケートでは令和5年度のイベント開催後にミニバスを利用したかの問いに乗車したと回答された人が約40%で、一定の啓発結果はあったと考えられる。
基本方針 3 (3) 地域づくりと一体となったバスへの愛着（マイバス意識）を高める施策 ⑧マルシェイベントと連携したミニバス利用促進キャンペーン	■ コロナ禍による利用者が減少した公共交通の需要回復のため、様々な公共交通の利用が可能となる知立駅で開催されるマルシェでミニバス無料乗車券を配布 ■ バス運行時間帯以外にはタクシーも利用してもらえるよう周知	■ 10月から2月まで4回開催された知立ドリームマルシェにて買物をした人に無料乗車券を配付（計1,600枚） ・ 令和4年度：利用者数235人（配付枚数の14.7%の利用率）	■ 周知にSNSを活用する等、主な客層である若中年齢層が情報を得やすくするよう工夫したが、思うように利用が伸びなかった。 ■ 自家用車ではなく公共交通を使うことの優位性に着目し、PRする必要がある。
基本方針 3 (3) 地域づくりと一体となったバスへの愛着（マイバス意識）を高める施策 ⑨ミニバス車内ギャラリー	■ ミニバス車内に公募による市民の作品を掲示することにより、ミニバスに親しみをもってもらうことを目的として実施	■ 12月下旬から3月末までの間、親子川柳入選作品を及び市内中学生が描いた川柳の挿絵を掲示 ・ 令和6年度：60首 ■ 各種健診、選挙啓発等の行政情報を掲示 ・ 令和6年度：5件	■ 当初は絵葉書等ギャラリーらしい掲示を行っていたが、近年は公募せず、ほぼ親子川柳用の事業となっている。 ■ コロナ禍を経て自宅のできる趣味の活動が増えたため、再度公募することを検討したい。
基本方針 3 (3) 地域づくりと一体となったバスへの愛着（マイバス意識）を高める施策 ⑩ミニバス車体広告事業	■ ミニバス運行における自主財源の確保と地域経済の振興を図ることを目的として実施	・ 令和4年度：1社 277,950円 ・ 令和5年度：2社 550,716円 ・ 令和6年度：4社 890,462円	■ 毎年コンスタントに掲載件数が増加しており、広告収入も比例して増加している。 ■ 運転席側の掲載スペースが不人気のため、m当たり単価を下げる等検討する必要がある。

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
基本方針3 (3) 地域づくりと一体となったバスへの愛着（マイバス意識）を高める施策 ⑪ミニバスデジタルサイネージ事業	■ミニバス車内にデジタルサイネージを設置し、民間事業者等の広告及び市のイベント情報や啓発情報を放映。市民に情報提供し、市民サービスの維持・向上を図る	- 令和5年度： 民間企業 計20社 行政情報 計10件 - 令和6年度： 民間企業 計22社 行政情報 計28件	■デジタルサイネージでの行政情報等の放映はデータをパワーポイントで作成できるなど、手軽で年々掲載件数が増加している。



①ミニバスdeお出かけモデルコース



⑦ミニバス・タクシー乗車体験



⑧マルシェでの無料乗車券配付



⑪ミニバスデジタルサイネージ



③G T F Sデータの整備とGoogleMapへの経路掲載

■計画全体の目標値

目標	目標とする指標	目標値 [R8]	評価値 [R6]	現況値 [H28]	考察
公共交通利用者数の維持・増加	市内公共交通計	24,185人/日	21,405人/日	23,544人/日	目標値設定がコロナ禍前であることから評価値と乖離しているが、バス路線については目標値を上回った。
公共交通利用割合の向上	鉄道	83.1%以上	79.0%	83.1%	コロナ禍から約5年が経過し、電車を利用した通勤者数の減少や、通勤手段・頻度の変化により低下した。
	空港バス	14.6%以上	—	14.6%	(大幅な減便があったため調査未実施)
	路線バス	13.0%以上	13.4%	13.0%	沿線住民の知立駅や刈谷市方向への移動手段として、大きな変化なく役割を果たしている。
	ミニバス	24.6%以上	26.3%	24.6%	計画策定後、様々な乗車機会創出の取組を実施した結果、目標値を上回った。

※「公共交通利用割合の向上」の各評価値はR7市民アンケート調査値を採用

■基本方針Ⅰの目標値

目標	目標とする指標	目標値 [R8]	評価値 [R7]	現況値 [H28]	考察
公共交通総合満足度の向上	公共交通総合満足度	26.1%以上	33.6%	26.1%	知立駅連続立体交差事業をはじめ、大小様々な公共交通関連事業が進行し、目に見えた変化や体感により、公共交通への関心や期待感が高まったため。

■基本方針Ⅱの目標値

目標	目標とする指標	目標値 [R8]	評価値 [R6]	現況値 [H29]	考察
公共交通を利用して知立駅周辺に来訪する人数の維持・増加	鉄道	17,000人/日	14,601人/日	16,544人/日	電車を利用した通勤者数の減少や、通勤手段・頻度の変化により目標値を達成できなかった。
	空港バス	35人/日	0.6人/日	32人/日	令和6年11月に運休となり、大幅に減少した。
	路線バス	1,500人/日	1,200人/日	1,456人/日	路線バスを利用した通学者数の減少や、通学手段・頻度の変化により目標値を達成できなかった。
	ミニバス	250人/日	182人/日	218人/日	上記に加え、ミニバスを利用した買物・通院の減少や、利用する交通手段・頻度の変化により目標値を達成できなかった。

■基本方針Ⅲの目標値

目標	目標とする指標	目標値 [R8]	評価値 [R7]	現況値 [H28]	考察
公共交通に関する認知度の向上	市内をミニバスが走っていること	91.8%	92.5%	91.8%	運行20周年事業の実施や、転入者への案内にバスマップを同封する等の取組により、認知度が向上した。
	自宅近くを走るバスで行くことのできる施設	27.4%	25.3%	27.4%	「ミニバスモデルコース」を作成・公開する等の取組を行ったが、目標値を達成できなかった。

■地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統確保維持費国庫補助金）

評価指標		目標値	達成状況		考察
ミニバス2コース (パープル)	利用者数	32,742人	34,298人 (104.7%)	達成	利用者の年齢層が高いコースであり、アピタ（652人増）、知立駅（515人増）にて利用者の増加が見られることから高齢者の買物等お出かけ支援の一助となっていることが推察される。
ミニバス3コース (オレンジ)	利用者数	78,420人	80,655人 (102.8%)	達成	利用者の年齢層が若いコースであり、アピタ（1,201人増）、知立駅（698人増）、東刈谷駅北口（153人増）にて利用者が増えており、通勤・通学、買物需要に応えられていると推察される。
ミニバス4コース (ブルー)	利用者数	34,710人	33,866人 (97.5%)	未達成	知立駅（472人減）、アピタ（239人減）で利用者が減少している反面、ウォーターパレスKC（303人増）、野田新町駅北口（316人増）、ドミー（230人増）が増加しているなど、生活基盤が刈谷市に近く、他のコースと需要が異なることが推察される。

■地域公共交通確保維持改善事業（公有民営方式車両購入費国庫補助金）

評価指標		目標	実績	考察
ミニバス2コース (パープル)	代車運行日 (修理日)	安心して安全な コミュニティ バスの運行	前事業年度の運行日に対 する修理日の割合 4%→1%	修理による代車運行が抑え られ、安定した輸送を確保 することができた。

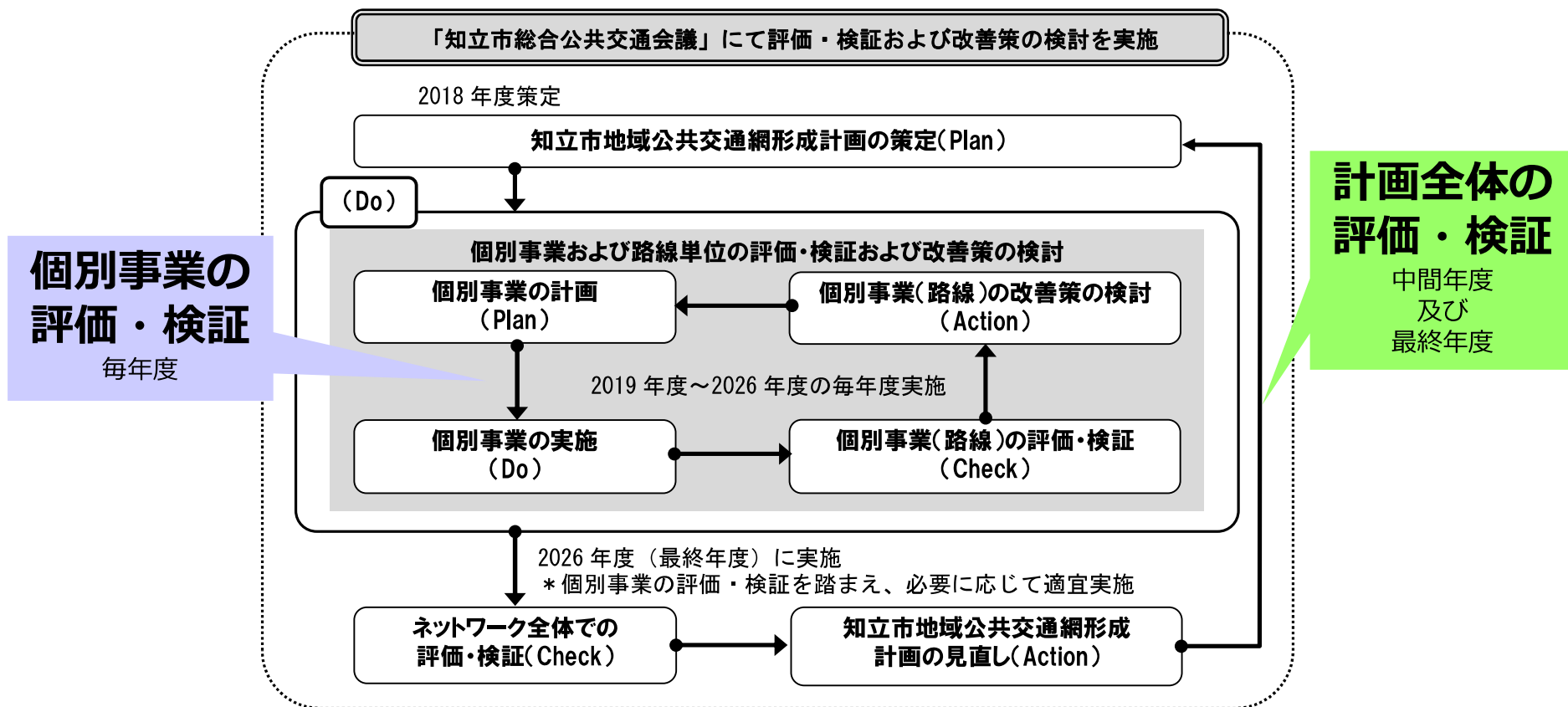
■地域公共交通計画における今後の方針

今後の方針

公共交通利用者数の維持・増加	公共交通利用者数	■知立駅連続立体交差事業や知立駅周辺整備土地地区画整理事業、再開発事業による交通状況の変化に合わせ、「まちづくりと連携」した公共交通ネットワークの再編を行い、八橋かきつばた園や知立神社等「観光振興との連携」、鉄道・路線バス・ミニバス及びタクシー等の「多様な公共交通の連携」を図る。 ・車内デジタルサイネージ等での連続立体交差事業の進捗情報の提供 ・同じくデジタルサイネージでの観光情報の提供 ・公共交通利用者が受けられるインセンティブ（割引等）の検討 ・エリアパス等の検討 ・CentXやmy routeなどMaaS実証事業の検討
公共交通利用割合の向上	鉄道利用者数	■事業者と協力したウォーキングツアー等を検討・実施し、利用を促進する。 ■こどもmanacaなど運行事業者が実施している施策の情報提供を行う。
	空港バス利用者数	■運行事業者と利用実態等の情報共有を行い、運行再開に向けての方策を検討する。
	路線バス利用者数	■運行事業者と利用実態等の情報共有を行い、利用促進の方策を検討する。 ■シルバーパスなど運行事業者が実施している施策の情報提供を行う。
	ミニバス利用者数	■地域間幹線系統である豊田市に乗り入れる2（パープル）コース、刈谷市に乗り入れる3（オレンジ）コース、4（ブルー）コースについて、関係2市と連携し、利用促進のための施策を検討する。 ・各市との協議の場を設定 ・地域性やニーズ把握など情報を共有する。
	タクシー利用者数	■運行事業者と利用実態等の情報共有を行い、利用促進の方策を検討する。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回			
		該当ありません	
前々回			

※前回：○年○月○日、前々回：○年○月○日



■ 知立市総合公共交通会議等の直近 1 年間の実施状況

第 1 回 知立市総合公共交通会議 令和 6 年 5 月 3 日

主な議題：令和 7 年度地域公共交通網形成計画の別紙について

第 2 回 知立市総合公共交通会議 令和 6 年 11 月 26 日

主な議題：地域公共交通確保維持事業の事業評価について

第 3 回 知立市総合公共交通会議 令和 7 年 3 月 28 日

主な議題：令和 7 年度地域公共交通事業スケジュールについて

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 7年12月 5日

協議会名: 知立市総合公共交通会議

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持改善事業(地域間幹線系統)

①補助対象事業者等		②事業概要		③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況								⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)	
運営主体	運行事業者	系統名	運行区間			【計画目標指標：利用者数】 A：達成 B：未達成	輸送量(人)				収支率(%)				
							R7計画	R7実績	(平均乗車密度)	(運行回数)	R7計画	R7実績			
知立市	名鉄バス(株)	01 ミニバス(2コース) ※バス車両の導入にあたっては、地域公共確保維持事業の公有民営方式車両購入費補助を活用(令和6年度) 関係市町村：豊田市	知立駅～三河八橋駅～知立駅 (15.6km)	【全コース】 ・利用状況、運行状況について近隣市間で公共交通担当者会議を開催し、情報共有を密接に図り、計画づくりに継続的に反映した。 ・定期的に広報やHP等にミニバスに関する記事の掲載。公式LINEアカウントにおいても運行情報の提供した。 ・乗継時間等を考慮したダイヤ改正を検討・実施した。	A	補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅延はなく所定の事業計画通りの運行が実施された	A	目標：32,742 実績：34,298(104.7%) 前年度比105.4% 乗客の年齢層が高いコースであり、アピタ(652人増)、知立駅(515人増)にて利用者の増加が見られることから高齢者の買物等お出かけ支援の一助となっていることが伺える。	17.8	21.3	2.4	8.9	11.52	11.38	○今後の課題 【全コース】 コロナ禍後、増加してきた利用人数が頭打ちになってきており、今後は利用人数の維持及び新規利用者の開拓を行う必要がある。 ○課題を改善する取組 【全コース】 今年度実施した交通計画策定に係る市民アンケート調査の結果では、ミニバスの認知度は92.5%であったが、その反面、自宅近くのバス停から行くことのできる施設の把握については25.3%に留まっており、特に若年層の割合が高いため、定期的に官民連携した公共交通イベントへの参加等で啓発を行っていくとともに、実際に利用することを前提とした乗り方講座等を検討・実施する。
知立市	名鉄バス(株)	02 ミニバス(3コース) 関係市町村：刈谷市	知立駅～東刈谷駅～知立駅 (13.4km)	・GTFSデータを整備し、GoogleMap上のルート検索に対応するなど利用者の利便性を向上させた。 ・各バス停にバスロケの利用方法、同一バス停に位置情報を掲載して利用者の利便性の向上を図った。 ・ハンディキャップのある方やバス利用に抵抗がある方への利用促進のため、「知立市福祉健康まつりwith草の根フェスティバル」にバス車両を持ち込み、実際に乗車体験等を行ってもらうことで、利用への抵抗をなくしてもらえるよう啓発活動を行った。	A	補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅延はなく所定の事業計画通りの運行が実施された	A	目標：78,420 実績：80,655(102.8%) 前年度比105.1% 乗客の年齢層が若いコースであり、アピタ(1,201人増)、知立駅(698人増)、東刈谷駅北口(153人増)にて利用者が増えており、通勤・通学、買物需要に応えられていると伺える。	60.4	73.1	6.9	10.6	24.93	25.01	【4コース】 今年度目標値を下回ってしまったため、課題の整理を行う必要がある。市民アンケート調査の結果から、他のコースと違い、普段使用する駅が野田新町駅、刈谷駅と生活基盤が刈谷市に近いことが伺えるため、刈谷市と連携し、モデルコースの作成などを検討・実施する。
知立市	名鉄バス(株)	03 ミニバス(4コース) ※バス車両の導入にあたっては、地域公共確保維持事業の公有民営方式車両購入費補助を活用(令和2年度) 関係市町村：刈谷市	知立駅～野田新町駅～知立駅 (15.1km)	with草の根フェスティバル」にバス車両を持ち込み、実際に乗車体験等を行ってもらうことで、利用への抵抗をなくしてもらえるよう啓発活動を行った。 【2コース】 ・豊田市バスマップへ当該路線の情報を継続的に掲載した。 ・新たな利用ニーズの開拓のため、御手洗公園及び三河知立駅を新設した。	A	補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅延はなく所定の事業計画通りの運行が実施された	B	目標：34,710 実績：33,866(97.5%) 前年度比99.4% 他のコースと比較し、知立駅(472人減)、アピタ(239人減)で利用者が減少している反面、ウォーターパレスKC(303人増)、野田新町駅北口(316人増)、ドミー(230人増)が増加しており、利用ニーズが異なることが伺える。	20.5	23.1	2.6	8.9	11.25	11.39	

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 7年12月 5日

協議会名:	知立市総合公共交通会議
評価対象事業名:	陸上交通に係る地域公共交通確保維持改善事業(地域間幹線系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	【ミニバス2コース】 ■路線の特性及び利用者の特徴 知立駅を起終点として、市内北東部を周回し、豊田市内の名鉄三河八橋駅を経由する路線である。名鉄三河八橋駅を利用しての、豊田市方面への通勤、通学、買い物等の利用が多い。 ■路線の必要性 名鉄三河八橋駅を利用しての、豊田市方面への通勤、通学、買い物等の利用が多く、生活に欠くことができない交通手段となっている。 【ミニバス3コース】 ■路線の特性及び利用者の特徴 知立駅を起終点として、市内南部を周回し、刈谷市内のJR東刈谷駅を経由する路線である。JR東刈谷駅を利用しての、通勤・通学・買い物等での利用が多く、刈谷市のコミュニティバスや安城市のコミュニティバスへの乗り換えもできる。 ■路線の必要性 JR東刈谷駅を利用しての、通勤・通学・買い物等での利用が多く、刈谷市のコミュニティバスや安城市のコミュニティバスへの乗り換えもできることから、生活に欠くことができない交通手段となっている。また、刈谷市内の総合病院に通院する高齢者が多く利用しており、重要な路線となっている。 【ミニバス4コース】 ■路線の特性及び利用者の特徴 知立駅を起終点として、市内南西部を周回し、刈谷市内のJR野田新町駅を経由する路線である。JR駅を利用しての、通勤・通学・買い物等での利用が多く、刈谷市のコミュニティバスへの乗り換えもできる。 ■路線の必要性 JR野田新町駅を利用しての、通勤・通学・買い物等での利用が多く、刈谷市のコミュニティバスへの乗り換えもできることから、生活に欠くことができない交通手段となっている。また、刈谷市内の総合病院に通院する高齢者が多く利用しており、重要な路線となっている。 このため、地域公共交通確保維持事業により、ミニバス2コース、3コース及び4コースを確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていくことが必要である。